



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2021年8月号

子供が「今日も宿題をやらなかった理由」を本音で語る理由

「今日あったこと」を何も話してくれないという

のは中学生の保護者様からよく聞く話ですが、昔話
題になった「ヒリギヤル」の著者坪田氏がこの件に
関して述べられていたので抜粋して紹介したいと思
います。

無意識な「子へのダメ出し」には要注意

「共感」はとても大切です。共感しながら話を聞
いていけば、子どもはなんでも話してくれるように
なります。小さいうちはみんな、今日あったことや
思ったことなどを何でも親に話しますよね。

「今日ね、幼稚園の門のとこまでブーンって虫が
来てね、先生がぎゃあって驚いてね、でも僕は全然
驚かなくて、ああ、これはカナブンだよって教えて
あげたの。そうしたら先生が……」などなど、毎日
のうちに「聞いて聞いて」「と一生懸命話をしてくれ
ます。

でも、年齢が上がるにつれ、あまり話さなくなっ
ていきます。それは自然なことでもあるのですが、
多くの場合、共感よりダメ出しが多いから話さな
くなるのです。

「先生に教えてあげられてよかったね。誇らしく
あったね」と共感するのではなく「えー、いやだ。また
虫〜とか」それより、ちゃんと先生にあいさつで
きたの〜」「なにを〜」「なにを〜」は「なにを〜」

わかってもらえない」「と感傷的になります。

わかってもらえないでいるか、ダメ出しです。ダメ
出しをしないためには、情報をあまり出さないほう
がいい。だから話をなくなるのです。

大人だってそうですよね。共感してもらいたく
話しているのに、「」「」「」がダメなんだよ
と言われたら二度と話さずんかと思ってしまう
じゃないか。

「宿題へんやりのなまじり」についても宿題はしてけれ ない

「宿題へんやりのなまじり」「学校へんやりの行きな
い」という声かけもめりがちですが、これは明らか
に「つまへんやません」。

なぜか「宿題へんやりのなまじり」という言い方は、
そもそも「宿題」に価値を置いていないことが表れ
ているからです。宿題をやったことまで言いたくは
ないからいけません。そのへんやりのよっておけよと
いいます。

「これはクソゲー（つまり面白いゲーム、時間をむ
だにするようなゲーム）だけどやれ」と言われてい
るようなもの。やっても価値のないことをやれと言
われて、誰がやる気になるのでしょうか。

それに、この言い方は典型的なマウンティングで
ある。自分の方が面白いから学校へんやりのなまじり

なまじり「の言葉のウラミ」は、「私はこのへんやりの学校は
卒業したけどねー 私はもっとずっと高度なことを
やっているけどねー」というのが見えるのです。
そして、「お前はダメだ」と伝えているのです。

と書いてありました。(以上引用終了)

面談していても「宿題へんやりの」「暗記へんやりの」な
どへんやりにする言葉なので注意したいものです。「家
事へんやりの」とかやっつてよ」「とか」「子育てへんやりの
っかりしてよ」とか文字入力するだけで怖くなるよ
うなフレーズですが、子供には案外平気で言ってい
るのかもしれない。

坪田先生の記事や本を読むと生徒を一人の大人と
して扱っているのが特徴です。書籍紹介で紹介して
いる「すべのこどもは天才になれる親」(あなた
の行動で「にも子どもを子ども扱いしないと子供は
成長すると書いてあります。子どもをいかに一人の
人間として扱うのが大事なのだと感じました。

私も仕事柄、子育てのいろいろな情報に触れる機
会があるのですが、子どもをいつまでも子ども扱い
することが一番子供の成長を阻害する要因ではな
いかと感じています。

私達親が子どもに一番望むことは、自分で考えて
行動できる大人になってもらうことです。そのため
には子どもに対して小さな大人として接することが
重要だと感じています。

みなさんも是非、自分の子どもへの接し方を見直
すつもりで読んでほしいです。

やる気相談室

考え方

優秀な講師達の考え方を学んでほしいです！

糸島学習塾YEMSでは、

授業の始まりに必ずで講師が生徒たちに向けて話をする時間を取っています。その後、私が他の講師をリンドムに指名して、その講師が話の内容に関連して気が付いたことを話し、最後に私がそれらに

連続した話を話すようにしています。

最初は私が毎回話をしていたのですが、

年の離れたおじさんの話よりも年の近い優秀な大学生の考え方に触れて欲しいこと

と、講師は講師で人前で話をするスキルアップや即興で答える力をつけるためにも有効だと考え、今日でも続けています。将来

は生徒もここに参加させていきたいという構想を持っていますが、まだまだ発展途上

です。

私が、生徒たちに望んでいるのは、折角

意識の高い優秀な学生に教わるのだから、

勉強の内容だけではなく、講師達が何のために勉強しているのか？どのような意識で勉強に取り組んでいるのか？講師達の考え方や勉強の仕方こそ学ぶべきことなのではないかと考えているからです。

私も講師達の考えを聞いて、やっぱり素晴らしいなあと思うことが度々あり、こんな考え方を生徒たちが見習ってくれることを切に願っていますし、そのようになるような企画をしていきたいと考えています。

6月に講師や卒業生と受験生が一緒に目標を立てるワークショップを実施しました。今月も模試の際に多様性を体感できるような受験生と講師の懇親会をワークショップ形式で実施する予定です。

講師達には先述の号令の他に朝礼で、全員に身の回りで起こった、「ありがたかった出来事」や「気づき」を話してもらっています。先日、朝礼ノートの5冊目が終了しました。なんと3年半継続することが出来ました。

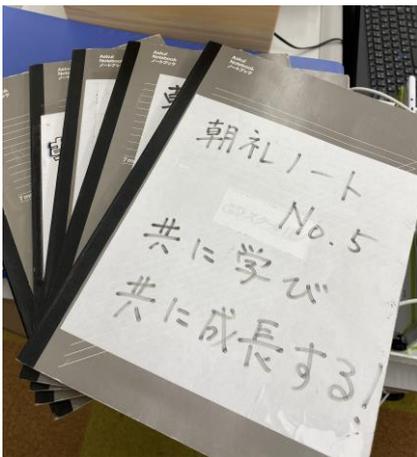
ました。

前向き思考の従業員さんが多い会社と少ない会社では業績に格段の違いが出ることを知り、朝礼を始めたのがきっかけです。

職場の雰囲気も本当に良くなり、生徒や保護者様から『質問がしやすい』『振り替えるの先生みんな良い先生ですね』と言われるようになりました。

一日にほんの少しの時間を前向きなことを考える時間にあてることの素晴らしさをしみじみと感じている次第です。

「共に学び共に成長する」という経営理念に基づき講師達も日々学んでいますので、生徒の皆さんにもこの気持ちが伝わって欲しいです。



書籍紹介 すべての子どもは天才になれる、親(あなた)の行動で Toru Funatsu 著

著者は金融会社勤務を経て幼児教育の権威である七田真氏に師事、英語教材の開発を行いその後独立し、ホノルルに TLC for Kids を設立。卒業生はその多くがハーバード大学等アイビーリーグを始めとした世界各国の最難関大学へ進学しています。その実績が評判を呼び TLC for Kids は、現在ではハワイに住むセレブの子どもが順番待ちとなる人気を博しています。そのような著者の「親のための教育書」ともいうべき本です。子育ての終わった身としては大いに反省させられる本でした。今子育て中の方やこれから子育てする方には是非読んで欲しい本です。特に習い事の見極めや趣味と学業の両立、英語教育に関しては必ず参考になる事例が載っていますので、読んで終わりではなく読んで実践して欲しい本です。この本を読んで、子どもの教育に関する親の役割の大きさに気づかされました。親に求められるものは子供の長所を把握してその長所が最大限に伸びる環境を整えることです。例をあげるとサッカーが好きだからただやらせるだけではなく、事前に予習をして、サッカーを始めてからモチベーションを高められる準備を怠らないことや、子供のレベルにあったチーム選びの重要性が書かれていました。また、食事はコミュニケーション能力を高めるための大切な場なので必ずテレビなどのメディアを消して自由に話せる場を作ることの重要性が書かれていました。自信を持たせ自分のアイデンティティを確立させるための子育て法が網羅された本です。

親の行動で。

すべての子どもは天才になれる、

世界中の子育てを見てきた結論——
親の習慣が子どもの能力に直結する

- 子育てのゴールは、受験や就職ではない
- 99.75%の天才は後天的に才能を開花している
- すべての個性は、強みに変えられる
- 子どもが好きな本に、才能の芽が隠されている
- 賢い親は「自分で選んだ」と思わせるように導く